

令和5年度 第2回赤穂市第1層協議体 開催報告

赤穂市の高齢者について、「エンディングノートを老後の備えにどう活用するか」をテーマに、有識者をはじめ各関係者にお集まりいただき、「第2回赤穂市第1層協議体」を開催しました。

今回は、より具体的に「50代からのエンディングノート普及啓発」についてグループワークを行い、各参加者で50代から残しておくべき項目について参加者の専門性を活かしてディスカッションしました。

日時

・令和6年2月15日（木）13時30分～15時00分

場所

・総合福祉会館3階集会兼運動指導室

内容

（グループワーク）

「エンディングノートを老後の備えにどう活用するか」
～50代向け 取り組みやすいエンディングノートの作成について～

グループワーク参加者からの意見

- ・ 50代でエンディングノートを書くのであれば、掲載する項目を選ぶ基準は第三者が緊急的に対応しないといけないものを優先して選んだ方が良くはないか。
- ・ 認知症になったらどうか、最終亡くなる時のことっていうのは、はっきり言うて書いておいて悪くはないが、特に生活の場所、将来どこで死にたいですかということに関しては、家なのか、病院なのか、施設なのかというところは、項目としてはあるが、それを自分の意思として書くというよりは、親にも聞いておかないとだめだよという啓発として、ちょっとチェックしてもらってという意向であってもいいのかなという意見が出た。書くメリットについても、普及啓発しなければいけないのではないか。
- ・ 軽い感じで書くのか、亡くなった時のことを深刻に考えて書くのかによって変わってくる。協議体でやるエンディングノートの目的、作り込みのところに影響すると思うが、軽い感じで書くと友人とかいるかもしれないが、責任をもって何かをやってもらうと思うとちょっと違って来るのではないか。
- ・ このような、活発な意見交換によりエンディングノート作成に向けてより具体的な協議を行う事ができました。有識者をはじめ各関係者が赤穂市の高齢者について考える有意義な会議となりました。

